

**2016 年度  
一般社団法人 CIEC 定時社員総会**

**議 案 書**

**2016 年 8 月 11 日(木)  
大阪大学豊中キャンパス  
(〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町)**

## 【2016年度一般社団法人CIEC定時社員総会 議案】

第1号議案. 2015年度事業報告と2016年度事業計画承認の件	1
第2号議案. 2015年度決算承認の件	
・ 財政報告	3
・ 貸借対照表	6
・ 損益計算書	7
・ 計算書類の注記表	8
・ 附属明細書	9
・ 監査報告書	10
第3号議案. 2015年度収支差額処分承認の件	11
第4号議案. 2016年度予算承認の件	12
第5号議案. CIEC役員選挙実施の件	15

## 【資料】

資料1. 2015年度活動報告と2016年度活動方針	16
・ 専門委員会	
・ 部会	
・ 支部	
資料2. CIEC活動報告	24

**2016年度一般社団法人CIEC 定時社員総会議案書**  
**議案 1. 2015年度事業報告と2016年度事業計画承認の件**

1996年7月に設立されたCIECは、2013年6月から一般社団法人CIECとして、設立以来の目的を引き継ぎながらこの3年間活動してきました。本議案では、2015年度の事業報告と2016年度の事業計画を提案いたします。

個々の専門委員会部会活動の報告は、それぞれの委員会や部会報告にゆだね、ここでは全体に関わる2015年度の取り組みの要点と2016年度事業方針について記します。

### 1. 学び、教育の革新をすすめる社会づくりへの発信

CIECは2013年6月に一般社団法人CIEC設立総会を開催し、CIECは一般社団法人として活動を続けてまいりました。2015年度には20周年事業として、記念シンポジウムを実施いたしました。記念シンポジウムでは、鈴木寛氏（東京大学教授、慶應義塾大学教授）による「未来の教育」と題した基調講演、「教育と学びにおける創造性と多様性」をテーマにしたパネルディスカッションが行われ、参加者も交えた活発な論議が交わされました。また、グローバル化の取り組みとして、MERLOT (Multimedia Educational Resource for Learning and Online Teaching)との協定を結びました。

### 2. PCカンファレンスをより一層充実した学びあいの場へ

「2015PCカンファレンス」は、2015年8月20日、21日、22日に富山大学で全国大学生協連との共催のもと702名の参加で開催されました。今回のPCカンファレンスでは、テーマを「ひと・まなび・かがやき」と題して、直近の大学改革のテーマであるグローバル化に焦点をあて、スーパーグローバル大学における様々な取り組みの紹介を通して、グローバル教育の現状と課題についての情報共有・意見交換の場を提供し、様々な企画を通してその「解決策」を模索しました。まず、大阪大学副学長（当時）の下田正先生より「グローバル化と大阪大学」と題した講演があり、その後、ICT利用教育、高大接続をテーマとした講演が続きました。これらの基調講演を受け、「グローバル化のなかの教育改革」および「電子書籍の現状・課題・挑戦」という2つのシンポジウムが開催されました。さらに、セミナー、イブニングセッション（交流型・ワークショップ型）が開催されました。分科会では118本（口頭86本、ポスター32本）の発表がありました。

「2016PCカンファレンス」は大阪大学にて8月10日、11日、12日に開催されます。全体テーマは「知の協奏と共創」です。「大阪は、庶民が街を作り、発展させてきた場所です。大阪大学も、庶民が開設した私塾をルーツに大阪の人々が中心となって設立した大学とされています。ぜひ、この場所で大いに未来の教育について語り合ってください。大阪は「食いだおれ」の街としても有名で、食文化の発展した場所でもあります。会議後は最寄駅の阪急石橋付近に数多くある居酒屋でその続きをされるもよし、キタやミナミの繁華街へ行かれるもよし。大いに盛り上がってください。ただ、食べ過ぎ飲み過ぎにはあきまへんで。ほんま、ぎょうさん楽しんでください！」（開催概要より抜粋）。

### 3. みんなが参加できる、成果を共有できる、専門委員会／部会／支部の活動の広がり

専門委員会は、研究委員会、会誌編集委員会、広報・ウェブ委員会、国際活動委員会の4つが理事会のもとに置かれています。研究委員会は、自らCIEC研究会の企画実施を担当するとともに、部会等が開催する研究会の調整・管理を行います。2015年度は、第107回、CIEC春季研究会2016が実施され、「CIEC研究会報告集 Vol.7」を刊行しました。会誌編集委員会は、会誌『コンピュータ&エデュケーション』の編集を担当し39号と40号を刊行しました。また、今年度からバックナンバーを含めて、最新号以外のJSTAGEでの公開を開始しました。広報・ウェブ委員会はCIECのホームページの刷新を行い、新ホームページを公開しました。国際活動委員会は、国際活動の企画・運営を担当し、引き続き情報提供をすすめています。

部会は、会員の自発的組織化として始まり、小中高部会、外国語教育研究部会、生協職員部会が研究活動を展開しています。さらなる会員の自主的活動の活性化のために、部会の新設を追求します。

小中高部会は関東、関西、北海道の3地区に拠点を拡大して活動をすすめる、PCカンファレンスでセミナーを企画開催するとともに、CIEC研究会を1回実施しました。外国語教育研究部会はPCプレカ

ンファレンス企画を実施しました。生協職員部会は、学生の大学生協の場を通じた学びに焦点を当てPCカンファレンスでセミナーを企画開催しました。

支部はCIECの地域組織で、各地域での会員の自主的活動の場として位置づけられます。現在、支部は北海道と九州の2つが活動しております。2007年度に設立された北海道支部では、北海道PCカンファレンス（北見工業大学）および、他団体と共催での研究会を開催するとともに、「学校の玉手箱」というセミナーを3回実施しました。2012年に設立された九州支部は、11月に九州PCカンファレンス（琉球大学）を開催しました。本年度11月には、九州PCカンファレンス（大分大学）、北海道PCカンファレンス（札幌学院大学）の開催を予定しております。

#### 4. 個人会員の拡充を図り、団体会員との新たな関係の構築に向けて

個人会員は本年度790名（2016年4月）となりました。個人会員が1000名規模に達するよう、引き続き個人会員の「参加」の場を広げていくとともに、PCカンファレンスや研究会などへの未会員の参加を促進し会員拡大に努めます。

また団体会員は団体85（2016年4月）であり、関係の強化については、今後新たな共同のキャンペーンや研究プロジェクトの創設など、団体会員とのコラボレーションを追求します。

#### 5. 広報、出版活動と「学会情報」の公開、発信にむけて

会誌への論文投稿も安定的に集まっており、編集委員会によって査読制度も確実に運営されており、年2回の会誌発行を順調にすすめてきました。会誌のJSTAGEでの公開も完了し、最新号を除くすべての既刊号が公開されております。最新号は発行の6か月後に公開されます。

また、ニューズレターについては完全Web化して会員への情報提供をすすめています。CIECホームページも内容の更新を実施しています。新ホームページにおいては、今まで以上に各委員会、部会、支部からの情報発信が容易になっています。

#### 6. グローバル化と海外交流

現在、英語版パンフレットおよび英語版ホームページの作成を進めています。今後、本学会の活動を国外へ広報することにより、目的を同じくする海外の機関との交流をはかり、協同での取り組みを進めていきたいと考えております。具体的には、カリフォルニア州立大学(CSU)を中心に運営されているマルチメディア教材の開発共有プロジェクトであり、その運営組織であるMERLOT (Multimedia Educational Resource for Learning and Online Teaching, <http://www.merlot.org/>)と協力協定を締結いたしました。さらに、MERLOTの有効活用を目指し、WGを設立しました。今後、本学会会員の既存教材利用、本学会会員作成教材の公開などを通じた協力を進めていくことを計画しております。さらには、本学会執行部と国際活動委員会で協力して、諸外国の学協会やその他組織との連携の推進を積極的に取り組んでいきたいと考えております。

#### 7. 財政基盤の確立、事務局体制と役員選挙のあり方

近年、大口団体会員の退会があり、一般会員数も頭打ちの状態となっております。引き続き、更なる収入増対策を検討する必要があります。個人会員、団体会員の拡大、政府や企業等との共同研究の推進などで収入増対策をすすめるとともに、経費対策をすすめます。社員総会、役員選挙については引き続き電子投票制度を利用することにより経費削減を図ります。役員交通費の削減にも取り組みたいと考えております。これらの施策に加えて、事務局長を中心に収入増・経費対策のタスクフォースを設置し、収入増対策および経費対策について更なる検討を進めます。

CIECの活動収支については厳密な運用管理と定期的会計報告と監査を受け、経費の透明性を確保し、税務当局への報告も明確にしています。

日常的なCIEC活動をすすめるために事務局は、副会長の中から事務局長を選出し、多くの事務を担当しました。2016年度においても引き続き現行の体制を維持し、法人としての事務局活動を進めます。

以上

## CIEC2015 年度財政報告

## 〔概況〕

2015年度決算は赤字となりましたが、予算案では経常損失金298万円が見込まれていたのに対し、167万円の損失に留まりました。

事業費・管理費とも三役・理事会の管理のもと各委員会・部会・支部が費用の節約や効率的な支出に努めました。

(文中の金額は原則として千円以下切り捨て、詳しくは損益計算書をご覧ください)

## 〔経常損益の部〕

## I. 〔経常収益〕

1. 会費収益 1,198万円／予算1,200万円

- ・個人会員会費収入は422万円で予算対比27万円の減(-6.0%)、団体会員会費収入は776万円で予算対比26万円の増(+3%)となりました。

<会員状況>	2015年4月1日	2016年3月31日	2016年4月1日
個人会員	786	822	790
団体会員	87	87	85

2. 事業収益 0／予算1.5万円

3. 財務収益 3千円／予算5千円

- ・受取利息 3千円

## II. 〔経常費用〕

1. 事業費用 953万円／予算1,050万円

(1) 会議費用 202万円／予算260万円

- ・専門委員会の会議費用が、ネット上での開催や他の会議と連動することによって、全般的に大幅に抑えられました。

(2) 会誌発行費用 272万円／予算250万円

- ・Vol. 39, Vol. 40を発行しました。

(3) 広報費用 177万円／予算125万円

- ・前年度から繰り越した新HPとメーリングリストの構築を今年度実施しました。
- ・CIECTypinbClub用サーバを購入しました。
- ・2014年度活動紹介パネルを作成しました。

(4) 研究会費用 37万円／予算77万円

- ・地域PCC派遣・支援費用では、北海道および九州PCCに副会長が参加して交流を深めました。
- ・2015年度は春季研究会および第107回研究会を開催しました。
- ・春季研究会ではCIEC研究会報告集vol.7を発行しました。

(5) 調査費 5万円／予算5万円

- ・北海道支部により教科「情報」の調査が行われ、その結果はPCC北海道で発表されたほか、協力各大学で活用されています。

(6) 事業活動費用 81万円／予算62万円

- ・三役会議費用，CIECTypingClub 開発および電子証明書費用，およびJM00C協賛会員の年会費です。

(7) 支部活動援助金 56万円／予算60万円

- ・北海道支部22万円および九州支部34万円の実績です。支部からは支部交付金の支給基準に沿って「活動報告・会計報告」が提出されました。

(8) 部会活動援助金 47万円／予算100万円

- ・外国語教育研究部会17万円，小中高部会25万円，生協職員部会3万円の実績です。3部会からは部会交付金の支給基準に沿って「活動報告・会計報告」が提出されました。

(9) 学会表彰事業費 21万円／予算10万円

- ・学会賞の副賞と学会表彰についての臨時打合せ交通費です。

(10) 教育出版 0／予算1万円

(11) 周年事業費用 51万円／予算100万円

- ・20周年記念シンポジウムの費用と英文チラシ作成の費用です。

2. 管理費用 411万円／予算450万円

(1) ネットワーク運営費 17万円／予算28万円

- ・旧HPメンテナンスおよびサーバSSL対応費用です。

(2) 事務局通信費 25万円／予算30万円

(3) 事務局業務委託費 300万円／予算300万円

(4) 事務用品費 31万円／予算40万円

(5) 備品購入費 0／予算10万円

(6) 管理委託費 10万円／予算20万円

- ・会計システム費用，会計顧問料で，10万円です。

(6) 雑費 26万円／予算20万円

- ・主に，振込や自動引き落としなどの各種手数料です。

(7) 予備費 0／予算1万円

(8) 租税公課 450円／予算3千円

- ・印紙代です。

〔経常外損益の部〕

III. 〔経常外収益〕

- ・雑収入 3万円／予算0

IV. [法人税等]

7万円/予算7万円

- ・法人住民税7万円を納めました。

V. [当期利益金]

305万円の赤字予算に対して、170万円の赤字に留まりました。

以上

## 計 算 書 類

## 第1 貸借対照表

## 貸 借 対 照 表

2016年6月30日現在

(単位：円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	19,805,673	流動負債	7,382,563
現金及び預金	19,553,897	未払金	129,563
未収金	251,776	前受金	7,253,000
		負債合計	7,382,563
		(純資産の部)	
		その他	12,423,110
		正味財産	12,423,110
		積立金	5,000,000
		繰越利益剰余金	7,423,110
		純資産合計	12,423,110
資産合計	19,805,673	負債・純資産合計	19,805,673

注) この表は、「一般社団法人・財団法人法施行規則による一般社団法人の各種書類のひな型」  
(2013年1月25日 経済団体連絡会)に準拠して作成しています。



## 第2 損益計算書

## 損 益 計 算 書

(自2015年7月1日 至2016年6月30日)

(単位：円)

科 目	金 額	
(経常損益の部)		
I 経常収益		
1 会費収益		
1) 個人会員会費収入	4,221,000	
2) 団体会員会費収入	7,760,000	
	11,981,000	
2 財務収益		
1) 受取利息	3,569	
	3,569	11,984,569
II 経常費用		
1 事業費用		
1) 会議費用	2,027,158	
2) 会誌発行費用	2,729,782	
3) 広報費用	1,779,375	
4) 研究会費用	377,794	
5) 調査費用	50,000	
6) 事業活動費用	813,225	
7) 支部活動援助金	566,378	
8) 部会活動援助金	471,288	
9) 学会表彰事業費用	211,011	
10) 周年事業費用	511,617	
	9,537,628	
2 管理費用		
1) ネットワーク運営費	177,584	
2) 事務局通信費	255,509	
3) 事務局業務委託費	3,000,000	
4) 事務用品費	315,872	
5) 管理委託費	101,540	
6) 租税公課	450	
7) 雑費	266,377	
	4,117,332	13,654,960
	経常損失金	1,670,391
(経常外損益の部)		
III 経常外収益		
1 雑収入	36,004	36,004
IV 税引前当期損失金		1,634,387
V 法人税等	70,000	70,000
VI 当期損失金		1,704,387

注) この表は、「一般社団法人・財団法人法施行規則による一般社団法人の各種書類のひな型(2013年1月25日 経済団体連絡会)に準拠して作成しています。

## 第3 計算書類の注記表

## 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

## ①計算書類及びその附属明細書の作成基準

一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成しています。

## ②資産の評価基準及び評価方法

## (1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっています。

## 2. 損益計算書に関する注記

(1) 法人税等は当期の法人住民税が含まれております。

## 3. 金融商品に関する注記

## (1) 金融商品の状況に関する事項

当法人は、運転資金はすべて自己資金でまかっています。

未収金は、回収期間は1年以内です。

未払金は、事業に係る費用の支払であり、1ヶ月後に支払うものです。

前受金は、次年度の会費です。

## (2) 金融商品の時価等に関する事項

2016年6月30日における貸借対照表計算額、時価及びこれらの差額は次のとおりです。(時価の算定方法については(注1)を参照)。また、重要性の乏しい科目については記載を省略しております。

(単位：円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
①現金預金	19,553,897	19,553,897	-
資産計	19,553,897	19,553,897	-
③前受金	7,253,000	7,253,000	-
負債計	7,253,000	7,253,000	-

## (注1) 金融商品の時価の算定方法に関する事項

## ①現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

## ②前受金

前受金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

## 附属明細書（計算書類関係）

## 主な資産および負債の明細

## (1) 現金預金 (単位：円)

内 訳	金 額
現金	600,329
当座預金 ゆうちょ銀行	2,984,734
普通預金 りそな銀行	3,852,570
普通預金 中央労働金庫	2,116,264
定期預金 中央労働金庫	10,000,000
合 計	19,553,897

## (2) 前受金

内 訳	金 額
次年度個人会員会費	3,093,000
次年度団体会員会費	4,160,000
合 計	7,253,000

2016年7月21日

## 監査報告

一般社団法人CIEC（コンピュータ利用教育学会）  
会長理事 熊坂 賢次 様

監事 橋 孝博 

監事 北村 士郎 

監事 佐藤 和之 

第4期事業年度の事業報告、計算書類及び附属明細書、その他理事の職務執行の監査について、次のとおり報告します。

### 1. 監査の方法及びその内容

監事間の協議により、監査方針を定めた上で、各監事は調査を行い、監査を実施しました。

具体的には、理事会に出席し、会計帳簿、会計書類、理事会議事録、重要な決裁文書及び報告書を閲覧しました。

### 2. 監査の結果

- 1) 事業報告は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。
- 2) 理事の職務の執行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- 3) 当法人の業務の適正を確保するために必要な体制の整備等についての理事会の議決の内容は相当です。
- 4) 計算書類とその附属明細書は当法人の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。

### 3. 追記情報

ありません。

以上

第3号議案 2015年度収支差額処分承認の件

2015年度利益金処分案

I 当期末処分利益金	<u>7,423,110 円</u>
II 次年度繰越利益金	<u>7,423,110 円</u>

上記のとおり、2015年度利益金は次年度へ繰り越すことを提案いたします。

一般社団法人 C I E C (コンピュータ利用教育学会)

会長理事 熊坂 賢次

## 2016年度予算計画

## I. [経常収益について] 1,210万円

## 1. 会費収益 総額 1,210万円

- ・ 個人会員会費収入は 440 万円の計画とし、会員の新規加入を促進します。
- ・ 団体会員会費収入は 770 万円の計画として、団体会員の新規加入を推進します。
- ・ PC カンファレンスや研究会などを通じて会員獲得を目指します。
- ・ 会員獲得について計画化と組織的取り組みを図ります。

## 2. 財務収益

- ・ 受取利息で 2 千円を計上します。

## II. [経常費用について] 1,240万円

## 1. 事業費用 総額 811万円

## 1) 会議費用 215万円

- ・ 総会費用は、20 万円を計上します。
- ・ 理事会は、12 月、3 月、6 月の 3 回分 110 万円を計上し、機関会議の軸とします。
- ・ 広報・ウェブ委員会は 20 万円を計上します。
- ・ 研究委員会は 20 万円を計上します。
- ・ 国際活動委員会は 10 万円を計上します。
- ・ 会誌編集委員会は 10 月、3 月開催の 2 回分 35 万円を計上します。

## 2) 会誌発行費用 250万円

- ・ 12 月の 41 号、6 月の 42 号発行を計画します（取材・送料込）。
- ・ JSTAGE への最新号登載費用 10 万円を計上します。

## 3) 広報費用 15万円

- ・ 案内リーフレットと 2015 年度活動紹介のパネル作成費用として 5 万円を計上します。
- ・ HP 構築運用費として 10 万円を計上します。

## 4) 研究会費用 総額では 68 万円（研究会 50 万円）

- ・ 北海道および九州 PCC 支援のための派遣費用として 15 万円を計上します。
- ・ 研究会費用を 50 万円計上します。
- ・ 研究会報告集費用は 3 万円を計上します。

## 5) 調査費用 5万円

- ・ 教科「情報」調査のための費用を 5 万円計上します。

## 6) 事業活動費用 71万円

- ・ 三役会議は 4 回開催とし、50 万円を計上します。
- ・ 諸会費等は、JMOC 年会費などで 11 万円を計上します。
- ・ 事業委託費は 10 万円を計上します。

## 7) 支部活動援助金 61万円

- ・ 支部活動を保障する予算を 61 万円計上します。北海道支部 25 万円、九州支部 36 万円です。支部では地域を単位とした事業（地域 PCC、研究会など）を展開し CIEC 会員の参加の「場」を広げます。

## 8) 部会活動援助金 85万円

- ・ 部会規約に基づき、定めた基準を満たす部会への援助金を 85 万円計上します。外国語教育研究部会 22 万円、小中高部会 53 万円、生協職員部会 10 万円です。

## 9) 学会表彰事業費用 10万円

10) 教育出版費用 1万円

11) 周年事業費用 30万円

2. 管理費用 総額 429万円

1) ネットワーク運営費 10万円

・ サーバ更新料など。

2) 事務局通信費 30万円

3) 事務局業務委託費 300万円

4) 事務用品費 38万円

5) 備品購入費 10万円

6) 管理委託費 20万円

・ 法人会計の税務顧問料およびシステム運用費用として20万円を計上します。

7) 雑費 20万円

・ 振込、自動引き落とし、各種発行手数料などの費用として20万円を計上します。

8) 予備費 1万円

9) 租税公課 2千円

以上

## 一般社団法人CIEC 2016年度予算案

(単位：円)

科 目	金 額	
(経常損益の部)		
I 経常収益		
1 会費収益		
1) 個人会員会費収入	4,400,000	
2) 団体会員会費収入	7,700,000	
	12,100,000	
3 財務収益		
1) 受取利息	2,000	
	2,000	12,102,000
II 経常費用		
1 事業費用		
1) 会議費用	2,150,000	
2) 会誌発行費用	2,500,000	
3) 広報費用	150,000	
4) 研究会費用	680,000	
5) 調査費用	50,000	
6) 事業活動費用	710,000	
7) 支部活動援助金	610,000	
8) 部会活動援助金	850,000	
9) 学会表彰事業費用	100,000	
10) 教育出版費用	10,000	
11) 周年事業費用	300,000	
	8,110,000	
2 管理費用		
1) ネットワーク運営費	100,000	
2) 事務局通信費	300,000	
3) 事務局業務委託費	3,000,000	
4) 事務用品費	380,000	
5) 備品購入費	100,000	
6) 管理委託費	200,000	
7) 雑費	200,000	
8) 予備費	10,000	
9) 租税公課	2,000	
	4,292,000	12,402,000
経常損失金		300,000



## 議案 5. CIEC 役員選挙実施の件

CIEC 役員選挙規約に基づき 2016 年度・2017 年度（2016 年度社員総会から 2018 年度社員総会まで）の役員選挙を実施しました。結果を選挙管理委員会から報告します。

個人会員の理事

団体会員の理事

監事

資料1：専門委員会、部会、支部2015年度活動報告と2016年度活動方針

※2015年度活動報告には、2015年6月末（2014年度）の活動で未報告分を含みます。

**会誌編集委員会**

1. 2015年度活動報告

- (1) 会誌「コンピュータ&エデュケーション」38号（2015.6.1）の発行
  - ・INTERVIEW「人とコンピュータとの距離を近くした未来の教育を目指して」  
浮川和宣さん（株式会社MetaMoJi 代表取締役社長）に聞く
  - ・特集「ラーニングアナリティクスと教育クラウド」：7本
  - ・事例研究：3本
  - ・論文：5本
  - ・私の意見：1本
  - ・本の紹介
  - ・参考：一般投稿（特集、私の意見、本の紹介を除く）13本（採択：8本、不可：5本）
  
- (2) 会誌「コンピュータ&エデュケーション」39号（2015.12.1）の発行
  - ・INTERVIEW「学生が何を感じるかに思いを馳せた教材作成を目指して」  
高遠節夫さん（東邦大学理学部訪問教授、KETpic 開発者）に聞く
  - ・特集「外国語教育とICTのコラボレーション 外国語運用能力の育成にICTはどこまで迫れるか?」：4本
  - ・2015PCカンファレンス報告
  - ・事例研究：4本
  - ・論文：3本
  - ・本の紹介
  - ・参考：一般投稿（特集、本の紹介を除く）10本（内38号リジェクト後再投稿1本、採択：7本 不可：3本）
  - ・表紙に著者名の誤記があった。
  
- (3) 会誌「コンピュータ&エデュケーション」40号（2016.6.1）の発行
  - ・INTERVIEW「『読むこと』を情熱と技術で支援する」  
西澤達夫さん（シナノケンシ株式会社 福祉・生活支援機器ビジネスユニットプロジェクトリーダー）に聞く
  - ・特集「教育におけるアクセシビリティとICT」：6本
  - ・事例研究：6本
  - ・論文：1本
  - ・本の紹介
  - ・参考：一般投稿（特集、本の紹介を除く）8本（内採択：7本 不可：1本）
  
- (4) 会誌に掲載された論文のJ-STAGEでの公開が始まった。最新号をのぞく全ての号の特集、論文、事例研究（活用事例）、編集後記が掲載されている。
  
- (5) 2015PCカンファレンスで編集委員会企画セミナー「『コンピュータ&エデュケーション』をより良くするために」を開催した。

2. 2016年活動方針

- (1) 昨年度に引き続き『コンピュータ&エデュケーション』の内容をさらに充実させることを目指す。  
「本の紹介」については、従来と同様に理事会メンバーに積極的な投稿を求める。
  
- (2) 2015年度に新投稿ジャンル「事例研究」が設けられた。執筆要項についても「論文」同様としたことに関して、セミナーなどを通じて会員への周知を図っていく。
  
- (3) 査読体制の強化と査読の迅速性を目的として、理事に査読協力を求めていく。
  
- (4) 巻頭インタビューについては、これまでと同様にCIEC団体会員を中心として対談相手を選定すると同時に、団体会員外企業にも積極的にインタビューを申し込み、CIECへの理解を深めることを目指す。

す。また、各種ソフトウェア・システムを有効に活用している実績のある個人についても、インタビューの対象としていく。

(5) 団体会員の協力の下、編集委員会主催の研究会開催も追求する。

(6) 学会賞選考委員会に編集委員会として協力をを行う。

(7) 2016PCCにおいても、昨年度に引き続き編集委員会企画セミナー「『コンピュータ&エデュケーション』をより良くするために」を開催する。

(8) 執筆要綱の整備について検討する。

## 広報・ウェブ委員会

### 1. 2015年度活動報告

CIECでは、2014年度からネットワーク委員会を改組し、広報・ウェブ委員会を設置しました。広報・ウェブ委員会は、CIECの広報全般、特にウェブサイトの運営等に取り組み、会員への情報提供、社会への発信等を強めることを目的とします。

CIECは2013年に一般社団法人となり、学会としての活動を強化していくことをめざしています。その一環として、第1に会員に対する告知・情報提供を強めていくこと、第2に社会への発信、広報を強め、社会的存在感を高めること、第3に会員間の交流等を推進していくことを目的に、広報・ウェブ委員会は活動します。

本委員会の活動内容は、おもな媒体はウェブサイトですので、ウェブの構築・運営を担当します。また、会員への情報提供や委員会等の運営のために運用されているメーリングリスト等の管理を行います。さらにソーシャルメディアの活用など、新たな広報展開をすすめます。そのほか、広く本会の広報全般を担当します。

2015年度は、上記の委員会業務のうち、ウェブサイトリニューアルについて業務委託等をすすめ、2016年2月1日に公開することができました。

#### 2014年度第2回広報・ウェブ委員会

日時：2015年6月7日（日）10:00-12:30

会場：大学生協杉並会館

議題 1. CIEC ウェブサイトの見直しについて  
2. その他

#### 2015年度第1回広報・ウェブ委員会

日時：2015年8月20日（日）10:00-12:30

会場：富山大学

議題 1. CIEC ウェブサイトの見直しについて  
2. その他

#### 2015年度第2回広報・ウェブ委員会

日時：2015年12月13日（日）10:30-12:30

会場：大学生協杉並会館

議題 1. CIEC ウェブサイトの見直しについて  
2. CIEC ロゴについて  
3. その他

#### 2015年度第3回広報・ウェブ委員会

日時：2015年6月12日（日）10:30-12:30

会場：大学生協杉並会館

議題 1. CIEC ウェブサイト記事更新の各組織分担の進捗等  
2. CIEC ウェブサイト・スペシャル記事の計画  
3. PCカンファレンスのアーカイブの取り扱い  
4. ソーシャルメディアの運用について  
5. その他

## 2. 2016年度活動方針

- (1) CIEC ウェブサイトリニューアルに伴い、サイト上のコンテンツの充実を図り、事務局や委員会・部会・支部・プロジェクト等による記事の更新をサポートする。
- (2) PCカンファレンスのアーカイブの取り扱いを決定し、CIECウェブサイト上で整備して公開する。
- (3) そのほか、広報全般、ソーシャルメディア活用についての検討をすすめる。

## 国際活動委員会

## 1. 2015年度活動報告

「海外の情報教育・教育の活用化」の視点から、次の2つの企画を実施しました。

## (1) 研究会：CIEC第106回研究会

テーマ：各国に見る教育の情報化と情報教育の動向 - ICT活用による新たな学びの取組 -

日時：2015年6月6日(土) 13:00-15:30

会場：青山学院大学 青山キャンパス 総研ビル（大学14号館）9階16会議室

講演・講師

演題「各国に見る教育の情報化と情報教育の現状」

講師 上松 恵理子 氏（武蔵野学院大学 准教授）

演題「携帯端末を活用した授業参加の促進と主体的な学び- 青山学院大での実践レポート -」

講師 寺尾 敦 氏（青山学院大学 准教授 CIEC会員）

参加者数：24人

なお、開催にあたり、小中高部会のご協力・ご支援を頂きました。

## (2) 2015 PCカンファレンス」でのイブニングセッション（交流型）

テーマ：「海外の情報リテラシー教育を通じてみる我が国の課題」

日時：2015年8月20日（木）18:30-20:00

場所：富山大学五幅キャンパス共通教育棟A32

概要：山形大学 加納寛子先生を講師としてお迎えし、「国際比較による情報リテラシー教育」に係る現状をご紹介戴き、そこから見えてくる「情報リテラシー」の我が国の問題点や在り方などについて、参加した皆さんと情報教育・意見交換を行いました。

参加者数：23人

## 2. 2016年度活動方針

昨年度の活動方針を引き継ぎ、2016年度も次の方針に基づく活動を行います。

(1) 諸外国の学協会やその他組織との連携を探るため、既に調査実績のあるアジア・オセアニアの地域をはじめとし、北米・欧州等の地域も含めた諸外国におけるICTを活用した教育を中心とした情報収集ならびに調査研究

(2) CIECの目指す活動に適う国際交流シンポジウムや研究会の開催に向けた取組活動

(3) 会員の海外における情報収集の機会を支援するための支援環境構築に向けた立案企画

(4) その他、本委員会の目標を達成するための事業の推進

本年度は2015年度会誌（Vol. 38）の特集で取り上げられた「ラーニングアナリティクスと教育クラウド」に関連して、「ここからはじめる「学び」のための学習分析(LA)」をテーマとする研究会を企画・実施しました。この研究会では、ラーニングアナリティクス(LA)を「ここからはじめる」ために、LAの欧米での先進的な取組み・最新動向に付いての講演とその特集号に掲載されているLAの実践に付いての講演を軸として設定しました。次に、企画した第108回研究会の概要を示します。

## 第108回CIEC研究会

テーマ：ここからはじめる「学び」のための学習分析(LA)

- LAの海外事情と標準化活動を基礎にして -

日時：2016年7月24日（日）13:00-17:30

会場：青山学院大学 青山キャンパス 総研ビル9階第16会議室

演題「Learning Analyticsの概要と最新研究動向」

講師 田村 恭久 先生（上智大学教授 JASLA 理事長）

演題「教育ビッグデータが開く新しい学習指導と大きな可能性」

講師 寺澤 孝文 先生（岡山大学大学院 教授 CIEC 会員）

参加者数 50 人予定

## 研究委員会

### 1. 2015 年度活動報告

今年度は、第 107 回 CIEC 研究会の支援（詳細は、CIEC の Web ページを参照のこと）、および、CIEC 春季研究会 2016 の実施と査読付き「CIEC 研究会報告集 Vol.7」を発行した。

#### (1) 第 107 回研究会（小中高部会主催）

テーマ「高大接続改革 ～新しい大学入試を見据えて ICT 活用はどうあるべきか～」

日時：2016 年 06 月 19 日（日）

会場：早稲田大学号館 703 教室（参加者数 53 名）

#### (2) CIEC 春季研究会 2016

日時 2016 年 3 月 26 日（土）

会場 大学生協杉並会館（参加者数 40 名）

継続的に開催している研究会企画として CIEC 春季研究会をおこない、査読付き「CIEC 研究会報告集 Vol.7」を発行した。本研究会には合計 19 本の投稿があり査読の結果、実践論文 5 編、萌芽論文 8 編、研究速報 1、合計 14 編を掲載した。

カテゴリー別の発表題目（著者）は、下記のとおりである。

#### 【 実践論文 】

- ・地域学習プラットフォームとしての協働編集 Web 地図の開発 - 立命館大学理工学部環境システム工学科での取り組み - （立命館大学 笹谷康之）
- ・子どものメディア利用時間に着目したタイムマネジメント教育に関する実践的研究 - 小学校高学年を対象とした授業の実践と評価 -  
（静岡大学大学院 酒井郷平 / 静岡大学 塩田真吾 / 浦和ルーテル学院 小林溪太）
- ・中学校数学科における宇宙教育の授業開発と評価 - 宇宙観測の疑似体験とアニメーション教材の開発 - （静岡大学 塩田真吾 / 千葉大学大学院 小池翔太 / NPO 法人企業教育研究会 荒崎智史・市野敬介）
- ・ドラマ教材を活用した情報モラル授業プログラムの開発と評価 - コミュニケーションアプリでの「既読」に関するトラブルを題材として -  
（敬愛大学 阿部学 / 千葉大学 藤川大祐 / NPO 法人企業教育研究会 竹内正樹・市野敬介 / ソフトバンク株式会社 石原友信）
- ・多人数でのプログラミング演習における学習者のコーディング状況の把握システム  
（三重大学大学院 彦坂知行・戸上稔崇 / 三重大学 上村拓磨・四方雅晴 / 三重大学大学院 北英彦）

#### 【 萌芽論文 】

- ・日本語学習者向けコロケーション習得モバイルラーニング教材の開発  
（大分大学 坂井美恵子 / 山口大学 中溝朋子 / 大分大学 金森由美・大岩幸太郎）
- ・英語授業における音声認識ソフトの導入と発音指導（大阪教育大学大学院・大阪教育大学附属天王寺中学校 吉田雅子 / 大阪教育大学 吉田晴世）
- ・ウェブベースで動くチャック同期提示マルチメディアプレイヤーの開発 - 言語教育における TED の利用から見えた可能性と課題 - （首都大学東京 神田明延 / ミント音声教育研究所 田淵龍二）
- ・eラーニングシステムにおけるソースコードを解答とする問題の自動採点  
（三重大学大学院 伊藤隼人 / 三重大学 上村拓磨 / 三重大学大学院 北英彦）
- ・画像処理を用いた双方向授業システムの改善検討  
（金沢工業大学大学院 山田圭祐・鎌田洋）
- ・プログラミングのビジュアル学習システム（金沢工業大学大学院 西川和隆 / 金沢工業大学 奥井康則 / 金沢工業大学大学院 鎌田洋）
- ・大学新入生向けコンピュータ必修科目授業改善の試み（日本大学 小林貴之）

・ノートPCベースのLinux演習における支援の効率化（金沢工業大学 鷹合大輔 / 金沢工業大学大学院 鎌田洋）

### 【研究速報】

・基礎学力、理系・文系の相違、高校教科「情報」、および授業デザインが大学の情報リテラシー科目に及ぼす影響の検証  
（中村学園大学 木下和也・姉川正紀・柳瀬尚司・谷口亮介）

## 2. 2016年度活動方針

春季研究会を開催し、査読付き報告集 Vol.8 を発行する。応募された論文がより向上することを目的とした査読をこれまで通り実施する。

研究会の開催については、これまでも試みたように他学会との共催や連携も積極的に行い参加者数の増加や新たな会員獲得に貢献していくものとする。また、支部企画として実施されてきた研究会についても、CIEC研究会として一元化しCIEC研究会の開催回数名の元でデータベース化し、広く会員に参加を呼びかけていく（ただし、希望があれば支部として重ねてきた開催回数を併記する）。

### 小中高部会

#### 1. 2015年度活動報告

(1) PCカンファレンス2015（富山大学）において、国際活動委員会のイブニングトーク協力  
テーマ：海外の情報リテラシー教育を通じてみる我が国の課題

(2) 研究会（小中高部会主催2回、協力1回実施）  
2015年度は、プログラミング教育、高大接続、大学入試改革をテーマの軸として、研究会を実施した。  
・第107回研究会  
テーマ 高大接続改革 ～新しい大学入試を見据えて ICT活用はどうあるべきか～  
日時 2016年6月19日（日）13:00 - 15:30  
会場 早稲田大学 3号館 703教室

(3) その他  
・情報処理学会 教科「情報」シンポジウム協賛  
日時 2015年10月31日（土）9:50～17:00  
会場 早稲田大学 西早稲田キャンパス 55N号館1階会議室

#### 2. 2016年度活動方針

・大学入試改革

2020年度入試改革を控え、現在新しい指導要領が作成されつつある。初等中等教育への影響と求められる学力を見据え、ICTが支援する学習環境について調査する。

・ポストアクティブラーニング  
タブレットや電子黒板などのICTを活用したアクティブラーニングの事例が多く報告されているが、アクティブラーニングはICTなしでも実施できるという視点のもと、ICTを活用することの意義と不易な授業方法の実践的研究を共有し、新しい学習形態を探る。

・プログラミング教育  
日本においても次期指導要領改定では初等教育からプログラミングが導入される。政府が、IT国家の世界最先端を目指していることを鑑み、各国が力を注いでいるSTEM(Science, Technology, Engineering, Mathematics)教育の展開状況を調査し、教員による単なる言語教育の授業や生徒が作って・動いて楽しいと感じるだけの授業ではなく、各教科の教員が自身の授業に落とし込み、教科内でも論理思考を育めるプログラミング教育について検討する。

#### 具体的な活動

- (1) 研究会の実施（内容は未定だが、3回、東京だけでなく他道府県でも開催を検討）
- (2) 世話人会の実施（最低、年3回、東京で開催予定）
- (3) PCC 2016（大阪）への参加・協力
- (4) 北海道地区において、PCC北海道などに参加・学習会の実施

- (5) 国際活動委員会との連携
- (6) 研究委員会との連携
- (7) プロジェクトへの協力

## 外国語教育研究部会

### 1. 2015年度活動報告

2015年度は、2015年12月20日（日）に大学生協杉並会館の204-205室にて第8回学習会を開催した。「iBooks Author を使った電子書籍教材作成一日ワークショップ」のテーマのもと、早稲田大学グローバルエデュケーションセンター准教授で、Apple Distinguished Educator の一人である Valerio Luigi Alberizzi 氏を講師として招聘し、iBooks Author を前もってインストールしてある Macintosh Laptop や iPad を参加者が持参し、基本的な手法を学ぶ形の集中的な一日ワークショップをしてもらった。午前中は基本的な eBook の制作方法の基礎、午後は各自の興味のある外国語教育・学習用 eBook 作成のためのノウハウについてさらに深める研修となった。開催時期が企画立案の遅れで年末となってしまった関係もあり、広報活動の不十分さも加わり、残念ながら参加者総数は6名という少数ではあったが、充実した学習会であった。

2015年度第2回となった第9回学習会を立命館大学大阪茨木キャンパス B 棟 4F 研究会室 1 にて開催した。「小学校から高等教育機関までの外国語教育の接続：ICT がどのような役割を果たせるか」というテーマのもと、5名の講師陣による事例報告をしてもらった。箱根かおり氏（アメリカンスクール・イン・ジャパン）の「マルチメディアを使用した読後の活動：ブックトレーラーについて」、上村隆一氏（グローバルコミュニケーションクラウドサービス）の「クラウド技術を活用したモバイル外国語学習：学校授業と自宅学習をつなぐ ICT の最新動向」、眞崎克彦氏（関西大学）の「Garage Band で外国語チャンツ・歌教材を作成する」、田邊鉄氏（北海道大学）の「TA（ヒト）と iPad（モノ）を活用したアクティブ・ラーニングのこころみ～初級中国語 CALL 授業における実践」、野澤和典氏（立命館大学）の「iBooks Author と Book Creator を使う eBook を作成する試み」の順で、有意義な事例報告がなされた。第8回同様、企画立案の遅れや広報活動の不十分さもあり、参加者数は12名であったが、参加者からは好評であった。

### 2. 2016年度活動方針

2016年度の活動計画は、8月のPCプレカンファレンス部会企画はすでに決定済みのため、会員に有意義なワークショップ・スタイルの集中型セミナーを2回実施したいと計画している。

#### <案1>

題名 教材作成のためのプログラミング言語 Swift 入門その1

場所 大学生協杉並会館（または立命館大学 OIC/BKC）

時期 2016年10月ないし11月頃

概要 小中高教員から大学教員まで、幅広い参加者を対象とした教材作成のためのプログラミング言語入門講座を開催する。Apple がオープンソースとして公開した全く新しいスクリプト言語 Swift は、初心者にも理解しやすい英語コマンドなど自然言語に近い体系を持っている。本セミナーでは、まず Swift の基本的な文法から学習し、具体例を参照しながら、タブレット、スマートフォンに最適化した簡単なアニメーションを実行する教材アプリを自作してもらう。

#### <案2>

題名 教材作成のためのプログラミング言語 Swift 入門その2

場所 大学生協杉並会館（または立命館大学 OIC/BKC）

時期 2017年5月あるいは6月頃

概要 前回セミナーに引き続き、小中高教員から大学教員まで、幅広い参加者を対象とした教材作成のためのプログラミング言語入門講座中級編を開催する。

## 生協職員部会

### 1. 2015年度活動報告

#### (1) 研究会／企画

8月/PCカンファレンスセミナー3

テーマ「2020年の学習・教育現場を考える～電子デバイス活用の変化を中心に～」

パネリスト：村井 万寿夫（金沢星稷大学 教授）

永野 直（千葉県立袖ヶ浦高等学校 教諭）

2020年大学入試制度が変わることが予想される中、小学校から大学に至るそれぞれのステージで、ICT活用のあり方や求められるスキルが変わろうとしている。またそれに伴い、小中高における電子デバイスの活用事例も増え、注目が集まってきている。今回のセミナーは、小中高大で現在起こっているICT利活用の動向、今のICT教育から（2020年に向けて）5年後を見据え、また小中高では電子デバイスをどのように利用しているかを学ぶことを目的に開催した。

パネリスト2名からの報告から、電子デバイスは必ずしも今の教育に取って変わるものではなく、学習やコミュニケーションをより活発に行うために利用されているものであることが分かった。この先の未来でICTを活用していくためには、生徒だけではなく、それに関わる者すべての意識や利用環境の変化が必要である。それは使い方が氾濫している電子デバイスをどのように使えるのかを教育し、自由な発想で使えるようにしていくこと、またそれを容認し、利用されている環境を前提とした教育が求められているのだと感じた。

## (2) 世話人会（関東世話人会計5回実施）

2015/8/22(富山大) PCカンファレンス 2015 セミナー登壇者打ち合わせ

2014/8/26(関東・杉並) PCカンファレンス 2014 セミナー総括打ち合わせ・次年度に向けて

2016/2/25(関東) PCカンファレンス 2016 打ち合わせ

2016/5/19(関東・杉並) PCカンファレンス 2016 セミナー企画打ち合わせ

2016/6/1(関東・杉並) PCPカンファレンス 2016 セミナー企画打ち合わせ・次年度方針討議

## 2. 2016年度活動方針

2015年度活動方針に引き続き3つを活動の主として活動を行う。

1) アカデミックリテラシーの一部であるコンピュータリテラシーの教育において、学生とともに生協がその一翼を担っているパソコン講座の研究。学生同士の学び合いや経験を継承する場としてとらえ、それぞれの現状と変化について継続的調査を行う。

2) 大学入試をはじめとした2020年問題を目前に控え、大学を取り巻く環境を知り、大学生になる高校生がこれからどのようなICT教育を受けて大学入学してくるのか調査・報告を行い、生協職員・大学生協としての関わり方を研究する。

3) 上記、1、2の活動を通じて生協職員のCIEC会員の増加につとめる。

### 北海道支部

#### 1. 2015年度活動報告

##### (1) PCカンファレンス北海道2015の開催

開催日：2015年11月14日(土)、15日(日)

会場：北見工業大学（実行委員長 亀丸俊一）

主催：PCカンファレンス北海道2015実行委員会

共催：北見工業大学、CIEC、全国大学生協連合会北海道ブロック

概要：特別講演では、「遠別小学校におけるICT利活用教育の取り組み- 過疎地域における教育の質向上に向けて -」と題し遠別小学校 教頭 野口修一氏より、また、「北海道内の地域連携型ICT活用教育の展開- 学校・行政・大学・NPOの連携を通じた教育の質向上に向けて -」と題し、千歳科学技術大学 小松川浩氏より、多様な切り口からのお話をいただいた。

また、「デジタル教科書を考える~手軽に作れる電子書籍を参考に」をテーマに、イブニングセッションを実施した（主催：曾我聡起、千歳科学技術大学）。

分科会では道外も含め22件の発表があり、プログラム全体を通し、のべ80人程の参加があった。

##### (2) 研究会の開催

開催日：2015年6月20日 13時～

会場：札幌学院大学

講師：遠別町役場 総務課企画振興係 係長 佐藤克久氏

講演表題：北海道におけるICT利活用教育の取り組み- 遠別町の事例紹介 -

主催：CIEC(コンピュータ利用教育学会)北海道支部

共催：JSiSE(教育システム情報学会)北海道支部

概要：遠別町は、千歳市、夕張市、栗山長、千歳科学技術大学との連携事業「ICTを活用した教育振興・連携事業」が2011年度に総務省の「地域ICT利活用広域連携事業」に採択されたことを契機に、継続的にICTを利活用した教育に取り組んでいる。町内の小中学校に電子黒板を設置するとともに、全児童生徒にタブレット型端末(iPad)を貸与し、教室内外での学習の動機付けと質的向上、学力の向



上に取り組んでいる。この取り組みの結果は検証の途中であるが、徐々に成果が見え始めている。本講演では、遠別町における、地域も含めた ICT 利活用体制整備の状況、小中学校における ICT 利活用事例を紹介していただいた。

### (3) 学校の玉手箱の開催

Vol.26, 27, 28 の学校の玉手箱を開催した。

1) 学校の玉手箱 Vol. 28：教育における iPad Pro/Apple Pencil の有効活用などについて考える  
2016年2月27日（土）、北海道クリスチャンセンター

出演者：曾我聡起氏（千歳科学技術大学）、中村泰之氏（名古屋大学）、中原敬広氏（合同会社三玄舎）  
概要：2015年にAppleが発売したiPad ProとApple Pencilを優れたアプリと組み合わせることによる、教育現場におけるタブレットの有効な利用方法や可能性について提案した。曾我氏からはPDF Expertを学生の論文指導で活用する方法を提案された。中村氏からは手書き入力と音声の録音録画アプリ ShowMeを用いた教材作成の可能性について紹介された。中原氏からは手書き認識エンジン MyScriptを用いたオンラインテストにおける数式の手書き解答システムについて報告された。（参加者7名）

2) 学校の玉手箱 Vol. 27：FileMaker プラットフォームを使った大学の ICT 教育

2016年1月23日（土）、Apple Store 札幌

出演者名：曾我聡起氏（千歳科学技術大学）、同大学学生2名、有賀啓之氏（DBPowers社、千歳科学技術大学非常勤講師）、荒地暁氏（ファイルメーカー社）

概要：FileMaker Proを使った大学でのICT教育の最新事例を紹介した。ファイルメーカー社の荒地暁氏が同社のキャンパスプログラムを説明。千歳科学技術大学で非常勤講師を務める有賀啓之氏が、授業でのFileMakerプラットフォームの利用方法を、同大学の曾我聡起教授と研究室の学生が、FileMaker Proを使ったアプリケーション開発の事例を紹介した。（参加者15名）

## 2. 2016年度活動方針

### (1) PCC 北海道 2016 の開催

10月22、23日に札幌学院大学を会場に実施することが決定している。

### (2) 研究会の開催

時期、会場は未定であるが例年通り研究会の開催を予定している。

### (3) 学校の玉手箱シリーズの開催

これまで通り、継続して実施することを予定している。

## 九州支部

### 1. 2015年度活動報告

2015年度の九州PCカンファレンスは、11月7、8日に琉球大学で、テーマを「美ら海おきなわで情報セキュリティを考える」として開催された。基調講演「ICT利活用のリスクリテラシー」、講演II「教育機関におけるセキュリティに配慮した文書作成の留意点」は、参加者のニーズに合致し、実際的、実務的な内容で好評であった。分科会は3つに分かれ、第1、第2分科会では北海道からの発表1本を加えて8本の発表があった。第3分科会は、CIEC九州支部「情報生活サポート研究会」の主催で、「PC講座の近未来を考える」をテーマとし、大学生協のパソコン講座に関わる学生と生協職員が多数参加してグループディスカッション形式で進められ、大学生協として学生にICTを学ぶ良質な場を提供し続けるための研究交流の場となった。

### 2. 2016年度活動方針

九州ではPCカンファレンスを、ICT教育について学ぶ場としてだけでなく、語学教育、協同組合活動、平和、地域の学校教育など、さまざまな学びの場と捉えている。2016年度の九州PCカンファレンスは、10月29、30日に大分大学で開催する予定で準備を進めているが、地域情報ネットワークにおける先進的な取り組みがなされた大分ならではの交流が期待される。

情報生活サポート研究会は、学生の情報生活のサポートをテーマとした研究を継続する。大学生協の電子書籍事業が始まり、電子教科書がさらに身近なものとなりつつあるが、このような教育の電子化の流れの中で、学びの本質を追及する研究交流を進める。その他の支部活動についても、九州PCカンファレンスなどの会員交流機会を活かして模索する。

## CIEC 活動報告 (2015 年 7 月～2016 年 6 月)

## 2015 年

- 7 月 10 日 (金) CIEC 社員定時総会開催公示
- 7 月 24 日 (水) 監事会 (会場: 大学生協連杉並会館)
- 7 月 31 日 (金) 2015 年度定例総会議案書アップ
- 8 月 19 日 (水) 2014 年度第 5 回 CIEC 理事会 (会場: 富山大学五福キャンパス)  
2015PCC 第 4 回実行委員会 (会場: 富山大学五福キャンパス)
- 8 月 21 日 (金) 2015 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会 (会場: 富山大学共通教育棟 C21)
- 8 月 20 日 (木) 2015PC カンファレンス (会場: 富山大学五福キャンパス)  
「ひと・まなび・かがやき」  
第 64 回会誌編集委員会 (会場: 富山大学五福キャンパス)  
2015 年度第 1 回広報・ウェブ委員会 (会場: 富山大学五福キャンパス)
- 8 月 21 日 (金) 2015PC カンファレンス
- 8 月 22 日 (土) 2015PC カンファレンス  
生協職員部会世話人会 (会場: 富山大学五福キャンパス)
- 8 月 26 日 (木) 生協職員部会世話人会 (会場: 大学生協連杉並会館)
- 10 月 24 日 (土) 2016PC カンファレンス準備会 (会場: 大学生協連杉並会館)
- 10 月 24 日 (土) 三役会議 (会場: 大学生協連杉並会館)
- 10 月 25 日 (日) 第 65 回会誌編集委員会 (会場: 大学生協連杉並会館)
- 11 月 7 日 (土) 2015 九州 PC カンファレンス in 沖縄 (会場: 琉球大学)  
「美らおきなわで情報セキュリティを考える」
- 11 月 8 日 (日) 2015 九州 PC カンファレンス in 沖縄
- 11 月 14 日 (土) PC カンファレンス北海道 2015 (会場: 北見工業大学)  
「ICT による教育の広域連携を目指して」
- 11 月 15 日 (日) PC カンファレンス北海道 2015
- 11 月 22 日 (日) 2015 年度第 2 回三役会議 (会場: 大学生協連杉並会館)
- 12 月 1 日 (火) 会誌「コンピュータ&エデュケーション」Vol. 39 発行
- 12 月 13 日 (日) 2015 年度第 1 回 CIEC 理事会 (会場: 大学生協連杉並会館)  
2015 年度第 2 回広報・ウェブ委員会 (会場: 大学生協連杉並会館)
- 12 月 19 日 (土) 研究委員会 (会場: 大学生協連杉並会館)
- 12 月 20 日 (日) 外国語教育部会 第 8 回学習会 (会場: 大学生協連杉並会館)  
「iBooks Author を使った電子書籍教材作成一日ワークショップ」
- 12 月 27 日 (日) 2016PC カンファレンス第 1 回実行委員会 (会場: 大阪大学豊中キャンパスの福利会館)

## 2016 年

- 1 月 4 日 (月) 小中高部会世話人会 (会場: 早稲田大学)
- 1 月 23 日 (土) 北海道支部 学校の玉手箱 Vol. 27 (会場: Apple Store 札幌)  
「FileMaker プラットフォームを使った大学の ICT 教育」
- 2 月 22 日 (月) 20 周年記念事業シンポジウム 会場視察及び打ち合わせ (会場: 株式会社内田洋行)

- 2月25日(木) 生協職員部会世話人会(会場:大学生協連杉並会館)
- 2月27日(土) 北海道支部 学校の玉手箱 Vol. 28(会場:北海道クリスチャンセンター)  
「教育における iPad Pro/Apple Pencil の有効活用などについて考える」
- 3月4日(日) 2016PC カンファレンス第2回実行委員会(会場:大阪大学豊中キャンパス 大阪大学会館)
- 3月26日(土) 第6回春季研究会(会場:大学生協連杉並会館)  
第64回会誌編集委員会(会場:大学生協連杉並会館)
- 3月27日(日) 2015年度第2回理事会(会場:内田洋行 新川本社地下1階)
- 3月27日(日) CIEC20周年記念シンポジウム(会場:内田洋行「東京 ユビキタス協創広場 CANVAS」)  
「教育と学びにおける創造性と多様性」
- 3月31日(木) PCC分科会論文発表申し込み締め
- 4月17日(日) PCC分科会論文採否及び時間割編成会議(会場:大学生協連杉並会館)
- 5月15日(日) CIEC学会賞選考委員会(会場:大学生協連杉並会館)
- 5月16日(月) CIEC役員選挙公示
- 5月19日(木) 生協職員部会世話人会(会場:大学生協連杉並会館)
- 5月23日(日) 役員立候補受付開始
- 5月29日(日) 外国語教育研究部会第9回学習会(会場:立命館大学大阪茨木キャンパス)  
「小学校から高等教育機関までの外国語教育の接続: ICTがどのような役割を果たせるか」
- 6月1日(水) 会誌「コンピュータ&エデュケーション」Vol. 40発行  
生協職員部会世話人会(会場:大学生協連杉並会館)
- 6月12日(日) 2015年度第3回広報・ウェブ委員会(会場:大学生協連杉並会館)  
2015年度第6回三役会議(会場:大学生協連杉並会館)  
2015年度第3回理事会(会場:大学生協連杉並会館)
- 6月15日(水) 役員立候補締め切り(12時)
- 6月18日(土) PCC第3回実行委員会(会場:大阪大学豊中キャンパス)
- 6月19日(日) 第107回研究会(小中高部会企画)(会場:早稲田大学3号館703教室)  
「高大接続改革 ~新しい大学入試を見据えてICT活用はどうあるべきか~」